

◆ 審美領域の抜歯即時埋入

審美領域のインプラント治療は、臼歯部のインプラント治療と違って、患者は、前歯部の1本または複数の歯を失った後、自信の喪失、人前で笑うことの回避など心因的な影響が大きい。このような患者に対して従来のインプラント埋入手法では、問題のある歯を抜歯し、抜歯窩が治癒するまで2~4ヶ月待ってからインプラントを埋入し、周囲の骨とインプラントが結合するまで3~6ヶ月待つ。この処置の後、インプラントを露出させ、補綴用アバットメントを装着するための二次手術をしなければなりません。最終補綴治療を考慮すると、患者は失った歯を補うために最大8~12ヶ月待つ必要があります。このような従来法の問題点から、抜歯後すぐにインプラントを埋入し、すぐにプロビジョナルレストレーションを装着することで、治療期間を大幅に短縮する戦略が一般的になってきました。今回は、精密模型上で、抜歯後即時入、即時荷重の症例を処置し、抜歯即時埋入、即時荷重を行う上での原理原則について学びます。

【講師】

林 揚春 日本大学客員教授
(所属学会) 日本口腔インプラント学会
日本顎咬合学会

村上 洋 日本大学教授
(所属学会) 日本口腔インプラント学会
日本補綴歯科学会

【講義と実習内容】

1. 審美領域の抜歯即時埋入
2. Osseodensification の実際
3. Root Membrane technique の方法
4. 歯肉縁下形態の重要性
5. 即時プロビジョナルレストレーションの作製
6. Q & A